

H26 授業改善プラン 中学校 第3学年 国語

内容を的確に読み取り，根拠を明確にして自分の考えを述べる力を育成する。

指導について

- ・ 調査問題概要／市正答率

『文章の構成や表現の仕方などについて，根拠を明確にして自分の考えを書く』問題

H26 全国学力調査問題／B1三 市正答率 47.9%

- ・ 課題

文章や資料の内容を的確に読み取り，根拠を明確にして自分の考えをまとめる力が十分に身につけていない。

- ・ 指導の手立て

「説明的な文章」や「意見を述べる文章」の教材として扱うだけでなく、「文学的な文章」や「古典」，「話し合い」などにおいても，根拠を明確にしてまとめることを習慣化し，自分の考えを述べる力を育成したい。

【教材名 古典「論語」】

【指導計画と評価】

時	指導計画	指導の手立てと留意点 / ☆評価 【使用する資料等】
1	○「論語」の内容を大まかにつかみ，漢文の読み方を確認して音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文のリズムに慣れることができるよう，繰り返し音読する場を設定する。 <p>☆学習活動の見通しをもち，作品への興味・関心を持っている。(関心・意欲・態度)</p>
2	○「論語」の言葉に表れている孔子のものの見方や考え方を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「論語」の3つの文の内容を理解し，訓読文を見てすらすら読めるよう，繰り返し練習する場を設ける。 ・現代語訳と対照させながら，自分の体験に基づいたほかの事例などに置き換えることで，孔子のものの見方や考え方が実感できるようにする。 <p>☆古人の言葉を引用しながら，孔子のものの見方や考え方をとらえている。 (読むこと/発表・ノート)</p>
3	○「論語」の文の中から印象に残った孔子の言葉を引用し，それについて自分の考えを文章にまとめる。 (条件) 1 160字以上200字以内 2 引用には「 」をつける。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達関係や勉強や部活動など，今の自分たちの生活における体験や事例を挙げながら考えさせることで，根拠を明確にするための手立てとする。【参考資料:「論語」，ワークシート】 ・ものの見方や考え方を深めることができるよう，交流の場を設定する。 <p>☆根拠を示し，自分の考えを書いている。 (読むこと/ワークシート)</p>

【参考資料】 論語

子曰はく、「故ふるきを温めて新しきを知る、以もつて師と為なるべし。」と。

孔子が言う、「古い歴史によく通じていて、しかも新しい現実をもわきまえていれば、人の師となれるだろう。」と。

子曰はく、「学すなはびて思くらはざれば則ち罔し。思すなはひて学くらばざれば則ち殆あやふし。」と。

孔子が言う、「書物を読み、学んでも、考えることをしなければ、物事ははっきりしない。それとは逆に、いくら考えても、読書をして学ばなければ、独断に陥おちいる危険がある。」と。

子曰はく、「君これ子は諸おのれを己これに求む。小人は諸を人に求む。」と。

孔子が言う、「君子は何事も自分に責任を求めて反省する。小人は責任を他人に求める。」と。

書き方の例

論語

「論語」の文から印象に残った言葉を引用し、それについて自分の考えをまとめよう。

※百六十字以上、二百字以内で書く。

※引用は「 」を使う。

※自分の生活における体験や事例をもとに、具体例を挙げて根拠を明確にして書く。

選んだ論語（書き下し文）

学びて思はざれば則ちすなは罔し。思ひて学ばざれば則ちあや殆ふし。

識	思	本	な	か	だ	ち	え	来	
し	う	当	ど	と	け	罔	ら	事	私
て	。	に	に	い	で	し	れ	を	は
学	今	自	つ	う	、	一	な	必	社
習	後	分	い	理	な	と	い	死	会
に	は	が	て	由	ぜ	い	。	で	科
取	自	理	じ	や	そ	う	こ	丸	の
り	分	解	つ	そ	の	こ	れ	暗	学
組	な	し	く	の	よ	と	は	記	習
み	り	た	り	時	う	だ	、	す	が
た	に	こ	考	代	な	と	一	る	苦
い	よ	と	え	の	出	思	学	の	手
。	く	に	る	人	来	う	び	だ	で
	考	な	こ	々	事	。	て	が	あ
	え	ら	と	の	が	丸	思	、	る
	る	な	が	物	起	暗	は	な	。
	こ	い	な	の	こ	記	ざ	か	年
	と	の	い	考	つ	を	れ	な	号
	を	だ	と	え	た	す	ば	か	や
	意	と	、	方	の	る	即	覚	出